

井波地域 会議録

件名	いなみ まちプロ 第5回会議		
日時	令和元年9月30日(月)19時~21時	場所	山野交流センター 和室
出席者	いなみ まちプロメンバー:9名、オブザーバー:川原忠史氏、サポーター:能登貴史氏、地方創生推進課:2名		
内容	・各団体等からの庁舎活用策についての検討報告、・視察研修の検討		
概要	<p>◆三谷会長挨拶</p> <p>○これまでの会議を経て、庁舎活用のアイデアはいろいろと出てきたように思う。それらアイデアを集約すれば良いのか、それぞれで検討していけば良いのか、この点についても検討していかなければならない。運営するにはお金が掛かる。経済的な話をすると、どうしても議論が堂々巡りになってしまうので、一度他所の事例を見てきたらどうか、ということで、今回は視察研修先の候補を挙げた。上手く運営する方法が学べたら良いと思っており、今日は、視察研修先についても決定したいと思っている。</p> <p>なお、今日は、オブザーバーとして、川原市議にも参加していただいているので、是非ご意見も賜りたい。</p> <p>◆各団体等からの庁舎活用策についての検討報告 (●…メンバー発言、○…三谷会長発言、◎…能登氏発言、→…事務局発言)</p> <p>○各団体から、庁舎活用策について話し合われた内容を報告していただきたい。</p> <p>【南山見地域づくり協議会】</p> <p>●8月11日開催の理事会にて話し合った。主な意見は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現庁舎建物の利用が大前提になっていることに驚いた。解体、更地化は検討しないのか？ ・負の遺産を清算することが、住民の利益になるのではないか。 ・井波地域にはどんな機能が必要で、どんな施設(文化センター、図書館ほか)を残していくのか、という検討はないのか。 ・庁舎の存続に、南山見の負担が増えることには反対。 ・住民負担の増える庁舎の利活用は止めるべき。 ・地域課題の解決のために庁舎を活用するのだ、という議論になっていないのでは？ ・あれも大事、これも大事、では、いずれ市政が破綻してしまう。 <p>●要するに、南山見の負担(人的、金銭的)が増えることには反対であるということ。以前、各地域づくり協議会が使うものとして、金銭的な負担協力を、という意見もあったように思うが、地元にある施設を捨ててまで、今検討されている施設を利用する気はない。現状で十分。</p> <p>●旧南山見保育園を南山見地区社会福祉協議会の活動の場にしたいということで、以前に市から無償譲渡を受けた。今後、この建物が不要になれば、市が取壊すことで合意している。南山見地区には、この他に交流センターもあり、地区内の施設が充足しているので、井波のまちに出てまで何かしよう、という考えにはならない現状である。</p> <p>○南山見の報告を伺い、それはそれでごもつともである。だが、今の時点では、経営面で行っていいのかという判断をしていきたいと考えている。事例を見ながらの、経営が出来るのかどうかの判断材料として視察を行い、皆さんと最終結論を出していきたいと考えている。このような流れで進めてきたと思うので、その旨ご理解をいただきたい。</p> <p>【高瀬地域づくり協議会】</p> <p>●前回と意見は変わっていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先程から、住民負担の話が出ていたが、例えば、税金をある地区に偏りして徴収するのか、あるいは、各地域づくり協議会から負担金のようなものをもらうのか、どちらになるのか？ ●現在、地域づくり協議会連合会等へ負担金を出しているのだから、その金額がこれ以上増えないように、との意見もあった。 ●南山見地区も高瀬地区も、現庁舎の建物は活用せずに、新築又は更地にする、という意見が多いということか？ ●今検討している施設は、他の地域づくり協議会では利用しない、ということ。 ●話が堂々巡りになるのは仕方がないことだが、以前にも話したが、現庁舎を活用するか、取壊して新築する、又は更地にして売却する、とかいう話は、次の話である。大事なものは、どんな機能を持たせたらか、ということではないか？真に必要な機能を何にす 		

るのかを突き詰めていき、それを積み上げた内容にしないと、説明もできないし、先にも進めないだろう。

- 検討会議での議論の内容が、まだ理解されていないようである。観光を中心に、観光客の滞在時間が増えるような仕組みを考えた時に、井波地区だけでなく、ほかの3地区についても、農産物や加工品の販売などの取組みも出来るのではないか。また、そのことにより、井波地域全体の中でお金が循環するようになれば良い、ということも議論した。
- ランニングコストをどのようにして捻出するのか、が重要なところ。まちづくり検討会議での提言は尊重しつつも、ランニングコストに問題がある場合は見直す、ということをおこなっていただいている。検討しても、意見が堂々巡りになってしまうので、一度視察してイメージを整理するのが良いのではないかと、というのが前回の議論であった。
- 庁舎を活用するにあたり、そこで事業をすることになるだろうが、収支の一致を求める事業にするのか、利益を求める事業にするのか、どちらか？この辺を検討すると、自ずと盛り込む機能の方向性が見えてくると思う。総花的ではなく、検討材料を絞っていく必要があるのではないだろうか。
- 検討材料を絞る必要はあるだろう。行政（市民）センターを始め、行政機関のどれとどれの入居が確実に見込める、ということであれば、市からの費用負担も当てに出来るだろうが、一方、残りの部分を民間でどのように運営していくか、という点も含めて、どんな機能の施設にして運営していくかを検討していかなければならないと考えている。最終的にはお金の話になってくるが、この点も踏まえて視察先を絞っていきたい。

◆ 本日配布資料の説明（事務局から）

◆ 質疑応答

（●…メンバー発言、○…三谷会長発言、◇…川原氏発言、◎…能登氏発言、→…事務局発言）

- ◎ 今検討している内容にピタリと当てはまるような視察先はないが、シェア金沢は財布がたくさんある見本。計画的に、別々の予算や補助金で建物を建設している。
- 建設費に補助金を活用しているのだろうが、全体としてプラスになっている。
- ◎ 人を寄せる仕組みを上手く使っている。金沢だから上手くいっているというより、ノウハウをたくさん持っているということ。
- ののいちカミーノはどうか？一つの建物で、公共と民間に分かれているようだが。
- ◎ 公共と民間のすみ分けがされている。建物の端から見ると、一つの建物で、どこまでが民間で、どこまでが公共かの区別はつかない。野々市市の肝煎りの建物。広さは、井波庁舎に近い。
- シェア金沢はちょっとしたまちのような規模。資金集めも上手い。当初から、しっかりとしたまちづくりの構想があったと聞いた。
- ◎ シェア金沢は設計段階から、イメージをはっきりと決めていたようである。予算に応じて、徐々にまちの形になっていったという点が興味深いところ。我々も、予算規模に合わせた事業実施が大切だと思う。
- この補助事業だからこの施設を、あの補助事業だからあの施設を、という感じで建てていったということか？
- ◎ 予め、あれとこれをする、と決めていたと聞いた。財政事情に合わせて、一つひとつ実現していった、というのが正しい。
- 整備費用の心配は無用だが、ランニングの部分をどうすれば良いのかが悩みどころ。ののいちカミーノは、公共棟と民間棟にすみ分けているとの事だが、ランニングはいくらかかっているのだろうか？
- ◎ そのような細かい話は、視察に行った際に確認するのが一番だと思う。これら5ヶ所は一応見てきているが、ののいちカミーノは立ち寄っただけで、担当者の話は伺っていない。
- NPO 法人くくのちは、地域資源を活用して～、とあるが、拠点施設はあるのか？
- ◎ プレハブのような建物がある程度。地域の人たちで、どのように地域を再生させていくのか、ということを実践しているのが NPO 法人くくのち。運営主体を作っていくにはどうしたら良いか、という話が度々出ているが、その点はとても参考になると思う。
- 俵芸術交流スタジオについては、改修という意味では庁舎の活用と似た部分はある。経営についても参考になりそうか？
- ◎ こちらについては、建物改修のエッセンスをいただけたら良いと考える。このような改修の事例がある、という程度で見ただければと思う。
- 見に行くとすればどこが良いかなど、他にもご意見を聞かせていただきたい。
- 視察では、手法だけを学んできたら良いと思う。

- ◎全国各地で、自分たちのまちを生き残らせようと工夫しているのは事実である。その一方で、そんなことを誰がするの？という考えがある中で、井波としてどのような地域活性化が出来るのか。その一つのシンボルとしての拠点施設となれば良い、ということが、自分がいなみ まちプロを応援する1つのポイントである。
- 視察先は、2、3ヶ所が適切かと思うが、どこが良いか。
- シェア金沢とNPO法人くくのちが良いのでは。
- ののいちカミーノも見るべきだろう。
- シェア金沢は一つのまちのようであり、規模が大き過ぎるだろう。私は、ののいちカミーノとNPO法人くくのちが適切かと思う。NPO法人くくのちは、拠点施設というよりは、まちづくりの手法を学べるかと思っている。
- NPO法人くくのちでは、話を聞いてもらえれば良い。
- ののいちカミーノは、建物が新しいから、詳しいランニングコストなどはまだでないだろう。
- 公共と民間の負担割合だけでも伺えると良い。
- シェア金沢はいつごろ出来たのか？
- ◎10年程前になるだろうか。
- 話が戻るかもしれないが、この「いなみ まちプロ」を立ち上げた時、井波庁舎のあり方を考えよう、ということだったはず。この点に絞って検討を進めるべきではないか？また、この点を踏まえて視察先を決めるべきだと思う。
- 一応、それなりの方向で絞ってきていると思っているが。
- 何かをしようとする時、大事なものは、人、もの、金、である。この3つを絶えず念頭に置きながら検討しなければ、物事は進んでいかない。
- 先の会議で、会議のスケジュールの話が出ていて、「スピーディに」ということが頭に残っていたので、発言させてもらった。
- ◇一番良いのは、民間が買い取って、そこで収益事業をしてもらえることではないだろうか。
- ◎以前、射水市の旧小杉庁舎をどうするか、という議論に係わった。結局は、市が庁舎を取壊して更地にし、そこを民間が買い取って私立小学校を建設した。民間譲渡は、買取った民間が好きにしていよいよ、ということ。結果、まちの中心にある広大な土地を地域で活用することは出来なくなった。井波地域の住民として、「井波」というアイデンティティを議論する場は「いなみ まちプロ」しかないと思う。いなみ まちプロが旧井波町の今後を考える場になればと思う。
- 何が井波に必要なのかを考えた時に、たまたま庁舎があったのでそれを活用する、と言う方が論調としてはきれいなのかなと。さっさと決めてしまえば良いではないか、という意見もあるが、井波の住民として、それはいささか寂しい気がする。
- 旧井波町民として、井波をどのようにデザインをしていくか、ということ。
- 庁舎については、結論は出ていないが、最終的には更地になるかもしれない。但し、今はまだ全く結論が出ていないので、庁舎を活用する方向で議論を十分に重ねるべきと思っている。今議論が煮詰まっているので、我々の検討内容に近いような事例を視察することで皆さんそれぞれの考えが整理されるとの思いから、今回視察を提案させてもらった。最終結論は、今は取り敢えず横に置いておいてほしい。
- ◇スケジュールにこだわらず、地域の総意を得て、方向性を決めていけば良いだろう。
- 誰かがリーダーシップを取って会議を進めることも大事かもしれないが、みんなで話を聞いて、みんなでまちづくりを議論する、そんな場が井波にあることが素晴らしいと思っている。
- ということで、視察先はどこにするか？
- 1日コースか半日コースになるだろうが、大勢の方の参加を考えるなら、半日コースが良いだろうか？ちなみに、バスなどの視察費用は市で対応する。まずは、候補日から挙げてほしい。
- ののいちカミーノとNPO法人くくのちは視察したい。
- ◎古い建物のイメージを見るには、俵芸術文化スタジオが良いと思う。目で見えるイメージは近いかと。
- 建物だけ見るのであれば、そんなに時間もかからないだろう。
- 氷見市いきいき元気館とシェア金沢は除くか？
- ののいちカミーノとNPO法人くくのちは決定として、行程を組んでみて、余裕があれば、俵芸術文化スタジオやシェア金沢も検討してみる。候補日も2つ、3つ挙げてほしい。
- ◎視察に行く前に、どういうことを伺いたいかわかった上で、行った方が良い。
- 意見が堂々巡りになることもあるが、確実に内容は絞られてきている。次回は視察なので、皆さんには是非参加していただくよう調整してほしい。

◆次回会議（視察研修）

候補日…10/31（木）、11/1（金）、11/7（木）、11/8（金）

時間 …いずれも午後の半日

場所 …ののいちカミーノ、NPO 法人くくのち

（時間があれば、俵芸術文化スタジオ、シェア金沢も）

いなみ まちプロ 第5回
R元. 9. 30 (月)

〈候補日〉 10/31(木) 11/1(金) 7(木) 8(金)

〈時間〉 午後の半日

〈視察先〉 ① 2 と 3

△ 2 と 3 と 1 と 4

◆ 視察研修先の選定 ◆

— 前回会議から —

△ 1. シェア金沢 (民) 当初からまちのデザインと決めたよ。視察で利益を出している。

サービス付高齢者住宅, アリエ付学生向け住宅, 児童入所施設, 温泉, 食事処 ほか

○ 2. にぎわいの里のいろかみー 複合交流施設

(公共棟 ← 中央公民館 + 市民活動センター)

(民間棟 ← シェアキッチン, シェアオフィス, コミュニティリビング
食堂キッチン, 観光案内・物産販売 etc)

○ 3. 金沢市東原地区 (NPO法人くものち) 運営主体の参考に。な。

地域資源を生かした商品開発, 循環型社会形成モデルP, 体験農園, 買い物支援 ほか

△ 4. 金沢市依芸術交流スタジオ (市外郭団体 指定管理) 建物リメイクの参考に。
旧依小学校跡を活用

5. 氷見市いきいき元気館 (社会福祉協議会 指定管理)
元小学校体育館を活用

手法と学んでくるべき

南山見地域づくり協議会 8/11理事会にて

- ・井波方舎を活用していかなんてビックリ!
- ・井波にどんな施設を残すべきかを考えるべき
- ・住民負担(南山見の負担)が増えるのは反対
- ・旧南山見保育園の譲渡 → 活動拠点に

- ・毎週月 → 月曜サロンの実施
- ・月曜朝市 ← 野菜の提供
- ・遊林地での菜園

- ・きちんと運営できなければならぬ
- ・視察を通じ、判断材料をメンドで考えてほしい
- ・現実味のある検討をするべきではないか?
- 検討事項を絞るべきと。
- ・現方舎跡を生かすか殺すかは次の話かと。

→ まずは、生かす方向で、どんな機能も盛り込めるかと検討すべき

Ex) 図書館、児童館、行政(市民)センター、井波地区交流センター

井波地域には
どんな機能が
必要か

・提言では、観光客の滞在時間がいかに長く
なるようなアイデアを盛り込ませよ。

・持続可能なまちづくりを考え始めたら、提言の
実現が難しくなってきたようである。

井波地域の活性化に結び付くような
機能はどんなものか?

・何かをする時は、**ヒト**、**モノ**、**カネ**

・旧小杉方舎の事例 → 民間譲渡
↳ もう少し慎重に議論すべきでは。

井波地域のまちづくりを
どのようにデザインするのかが

・視察により、検討の方向性を導き出した。

<次回> 視察です!



件名	いなみ まちプロ 第4回会議		
日時	令和元年8月23日(金) 19時~21時	場 所	山野交流センター 和室
出席者	いなみ まちプロメンバー：9名、サポーター：能登貴史氏、地方創生推進課：2名		
内容	・庁舎の活用策の検討		
概要	<p>◆三谷会長挨拶</p> <p>●取り敢えず庁舎を活用する方向で、活用の可能性を検討しているところ。経費をいかに生み出せるかが重要なポイント。もし、生み出せないとの判断になれば、取壊しもやむなしになるかもしれないが、ある程度活用策が固まれば専門家も加わっての検討も可能とのことなので、しっかりと前に進めていきたい。</p> <p>●この、いなみ まちプロでの取り組みは、井波地域全体に関係することから、井波地域出身の市議会議員の方々も非常に関心を示されている。8月9日に、才川、川原両市議、4地区地域づくり協議会長、井波行政センター長に対し、まちプロメンバー数名で説明会を開催した。その中で、いなみ まちプロとしての最終決定を誰がするのか、という意見が出され、「井波地域全体として決めた」という形で進めるべきということから、地域の最終決定機関としての地域審議会をもう暫く継続するように、市議の皆さん方にも取り組んでいただきたい、との意見もあって、今後、才川、川原両市議にはオブザーバーとして参加していただくことになった。メンバーの皆さんには了解していただきたい。</p> <p>◆本日配布資料の説明(事務局から)</p> <p>◆質疑応答(●…メンバー発言、→…事務局発言)</p> <p>●建物の耐用年数は何を基にしているのか。税の減価償却と同じか？ →仰るとおり。この年数が到来しても、すぐに壊れるというものではない。また、公共施設再編計画の耐用年数の考え方は、法定耐用年数の2割増としている。</p> <p>◆庁舎の活用策の検討 (●…メンバー発言、○…三谷会長発言、◎…能登氏発言、→…事務局発言)</p> <p>○各団体から、庁舎活用策について話し合われた内容を報告していただきたい。</p> <p>【井波地域づくり協議会(井波地区)地域づくり部会】</p> <p>●8月2日開催の部会の中で、庁舎活用策について再度話合った。</p> <p>[1]福祉施設の機能(有料老人ホームなど)</p> <p>●介護度の低い方でも入所可能であれば、ニーズは有るし、収入も見込める。また、市営バスの利用促進の可能性もあるのでは、との意見もあった。</p> <p>●運営は、福祉法人、JA、企業などとの意見があった。</p> <p>[2]図書館</p> <p>●庁舎建物内に移転すれば、中学生の利便性も高くなる。</p> <p>●蔵書や閉架書庫の資料の保管先の確保も必要。</p> <p>[3]井波彫刻訓練校</p> <p>●井波彫刻組合からは、機能移転については問題ないと伺っている。</p> <p>●隣接の井波伝統産業会館にある収蔵品をどうするか。建物は耐震化されていないので、いずれは収蔵品をどこかへ移転する必要があるだろう。</p> <p>[4]子どもの遊び場</p> <p>●近辺に行きたい遊び場がないので、休みの日は、福井、金沢、小松などへ出掛けている、という話を聞いた。</p> <p>●大人と子どもの共用スペースが理想。全天候型の屋内スペース。</p> <p>[5]Share(シェア)金沢を凝縮したようなコミュニティタウン</p> <p>●高齢者、障害者、健常者、学生が共生しているエリアとのこと。参考にしながら、庁舎活用策を検討してはどうか。</p> <p>[6]その他</p> <p>●次回は参考になりそうな事例を集めて、その整理をしてはどうか。</p> <p>【南山見地域づくり協議会】 →今回欠席</p>		

【山野地域づくり協議会】

- 8月22日開催の部長連絡会(会長、副会長、各部長、事務局)にて話し合った。
- 何をするにしても、あのままでは使えないだろう。イニシャルコストもランニングコストも市で見てもらうことを大前提にしないと、何をするにも考えられないのでは。
- 提言にある、子どもたちの集う場や井波彫刻の魅力発信などが適当という意見があった。
- どうしても議論が後戻りしてしまう。本当にこの場所でいいのか、等。
- イニシャルコストは市である程度見てもらえるだろうが、ランニングコストまでは市では見られないの方針である。それを踏まえて、どんな機能が考えられるのかを話し合っただけで欲しいとお願しているもの。
- 井波彫刻に限っていうと、他にも展示している施設があることから集約させることは出来ないが、前回の意見にもあった、木彫刻キャンプ作品を展示するのは可能ではないか。

【高瀬地域づくり協議会】

- 地区から遠いということで、活用策に対する意見は出なかった。
- 維持管理費を、各地域づくり協議会へ負担を求めることは難しいとの結論に至った。
- 維持管理費については、稼いで生み出す方法について議論をお願いしたいところである。当然、入居した人が稼いで維持していく方が望ましいが。

【井波地域老人クラブ連合会】

- まだ話し合う機会を持っていない。
- 他に、各団体以外の方々のご意見はどうか。
- 庁舎などの公共施設を用途変更して活用している事例にはどんなものがある？活用方法の知見を持っていれば教えて欲しい。
- 近辺では、過去に、井波高校を福祉的に利活用との意見があったが、結局は、取壊して新築となった。
- 1つの事例としては、氷見市役所(有磯高校からの転用)がある。これまでの検討の中で、県内の事例を調べられたことは？
- 特に調べたかどうかは分からないが、県内での事例はあまり聞かない。これまでまちプロでは、民間の収益的施設よりも、公共的施設を入れたほうが良いという方向で検討を進めていたかと思う。
- 子どもの遊び場について、子育て中の親御さん方のニーズとして、どのような規模や体裁のものを求めているのだろうか？
- 井波には、児童館のきぼりっ子がある。ここは、子どもを預かってもらえて、且つ、子どもは自由に遊べる場所である。但し、問題点がいくつかある。一つは、あまりにも来ている子どもの人数が多く、低年齢から小学校高学年までの幅広い年齢層が一つの空間に居ることに限界があること。それから、日曜日に利用出来ないこと。結果、高学年になるほど使い辛いような印象を受けている。実際、居辛いと感じた子が児童館から離れていく。一方で、自由に遊びたい子は、庁舎前の児童公園やアスモへ行く。このような現状を踏まえると、庁舎に子どもの遊び場機能を入れることは、スペースの使い方にもよるだろうが、屋根もあるので適当だと思う。出来れば、子どもの遊べる場と、大人が読書やお茶などで寛ぐ場とが、同じ空間にあると良いのではないか。
- 例えば、高岡のおとぎの森公園には、有料、無料の各スペースがあって、有料スペースは貸部屋などで、無料スペースは子どもの遊べる場になっている
- 屋外だが、富山市の富岩運河海浜公園も魅力がある。
- 時代、時代で新しい遊具が出てくる。大掛かりな遊具でなくても、ある程度のスペースがあれば、その時代の人気の遊具を設置するなどの工夫をしていけば良いと考える。
- 無理をして遊具を設置しなくても、空間があれば良いのではとも考える。以前、木彫刻キャンプ作品を設置するという意見があったが、子どもの遊び場空間にそのような作品があることは可能だろうか？
- 問題はないと思う。彫刻に関心を持ってもらえる可能性も期待出来る。でも、やはり遊具が少ないと、子どもたちが物足りないと感じると思われるので、いくつか遊具を設置し、そこに屋根が付けば、より子どもが来てくれるのではないかと思う。世界の彫刻と子どもとを結びつける設えに、子どもの遊び場的要素を加えることには賛成である。
- 庁舎建物の向かいに児童公園もあるので、場所としては悪くない。また、井波庁舎には他の庁舎にはない特異な大きな耐火書庫がある。重要書類などを保管する機能を備えるなど、上手く活用することも一考ではないだろうか。
- 5年後、10年後のニーズがどのように変わるのかは心配。呼び込みがどこまで可能なのかについても読みにくい。
- 福野の児童センターアルカスが出来た時、利用しやすく、近隣から子どもを連れてよく遊び

に行ったように、利用しやすければ遊びに行くものである。桜ヶ池公園も同様。子育て中の親御さん方は、土日など、休みになると子どもとどこへ行って遊ばれば良いか常に考えざるを得ない状況の中で、井波には、安心して、天気も気にせず遊びに連れて行ける所は少ないように思う。他にどのような機能を入れるかは別にして、子どもの遊び場機能は入れる方向で考えてみれば良いと思う。

- 子どもの遊び場について、閑乗寺公園のアスレチックも含めた遊具の機能を再編した方が良いのではないか。
- 天気が良ければ、閑乗寺公園でも良いが。
- 子どもは365日休みではない。土日、夏休み、冬休みなどが一番利用されることを考えれば、まちのど真ん中の施設を使うよりも、郊外の閑乗寺公園で整備した方が良いのではないか。屋外なので、全天候型にはならないが、クロスランドおやべや手取フィッシュランドなどの遊具を参考にすればどうか。
- 子どもが遊ぶ、というのは必ずしも休日や時期に限ったものではなく、放課後にも集まれるような場所が必要という点から考えるべき。
- 子どもの遊び場で一番困っているのは、小学校低学年よりも下の年齢のお子さんがある親御さんたちではないか。この年代は、遊ばせるにも親が付き切りにならない。
- 施設の維持を考えた時には、子どもの遊び場機能だけではなくて、他の機能も入れた複合的なものにしないと、運営出来ない。
- 子どもも大人も一緒に呼び込める機能としては有効。
- ランニングコストを自分たちで見ると、利用者負担が必要になってくる。例えば、1回何百円としたところで、果たして気軽に来てもらえるだろうか？
- きぼりっ子もアルカスも市の指定管理による運営。市の運営でなくても、料金をもらわずに運営していけるだろうか。
- 今議論している子どもの遊び場機能を、市が公的機能として認めて、全面的に運営していく、ということになれば話は早いですが、市も財政が厳しいから、そう簡単にはいかない。
- 何事も受益者負担になってきているし、市のものではないから、いくらかの料金徴収は止むを得ないだろう。そのためには、料金を払っても使いたい、という内容にしなければいけない。
- そのようになれば、市の方針とも合致するが、稼げる、ということでは、有料老人施設が適当なのではないか？
- シェア金沢について、ホームページ等を見ていると、検討会議で話していたコンセプトに近いような気がするので、参考にしてもいいか？
- シェア金沢について、能登さんが良くご存じなので、能登さんから紹介していただいてもいいか。
- 是非お願いしたい。
- シェア金沢は、社会福祉法人^{ぶっしえん}佛子園が経営している。市の空き地利用の公募に手を挙げて、プレゼンテーションにより採択を得て、開発することとなった。いわゆる、PPP※による運営である。小さい子からシニアまでが共存出来るエリアを作ったもの。例えば、子育て支援で言うならば、環境系の子育て団体の NPO 法人ガイア自然学校が中心になって事業展開している。エリアがコンパクトになっているところに意味があり、ここ井波でも、コンセプトさえ明確であれば、広く県内、遠くは石川からも人を呼び込むことは、十分に可能だと思う。運営面では、エリアごとに採算目標を設定し、外部の人を呼び込む取組みを行っておられて、きちんとビジネスになっている。
- ※PPP…Public Private Partnership (パブリック プライベート パートナーシップ) の略称で、行政と民間が協力して公共サービスを効率的に運営することをいう。官民パートナーシップ、官民連携とも呼ばれる。PPP の中には、PFI、指定管理者制度、市場化テスト、公設民営 (DBO) 方式、さらに包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング等も含まれる。
- シェア金沢を目標にするのであれば、人をきちんと養成する必要がある。まずはマネジメントする人を呼んでこないと、難しいのかな、というのが自分の見解。シェア金沢では、受益者負担ということではなくて、そこでビジネスをしている人たちがたくさんいて、それが、延いては地域貢献になっているということ。シェア金沢でいう受益者負担は、イベントの参加料などだろうか。来られた人がしっかりとお金を払って、満足して帰られる、という事業を連続して行っているの、それらの事業などをマネジメント出来る人がいないと、運営はちょっと難しいのではないだろうか。
- シェア金沢のようなことが出来る会社を誘致しないと無理ということか？
- 誘致というか、人任せということではなくて、全国的には公共施設の跡地利用でしっかりとビジネスをやろうとしている人たちはいるので、井波のそういう人たちが本気でビジネスをやり始めれば、十分採算性のある施設にすることは可能と思っている。
- 今の庁舎を使ってビジネス、ということか？

- ◎そういうことである。コミュニティビジネスと言うが、地域のニーズを汲み取って、それをいかにマネタイズ、お金の回る形に変化させていくか。全国事例はたくさんあるので、それらを学び、実験しながら、というのは可能などころではないか。先日、島田優平さんからのプレゼンテーションの中で、若い人たちが施設利用によりコミュニティビジネスをしていくのが良いのでは、という話があった。施設利用だけでなく、人材育成も含めて、井波に住んでいる人々が、この井波をどのように活気ある地域にしていきたいか。今後、井波が20年、30年先の地図に残っていける場所に来るか。20代30代の若い人たちにそれを託す場として、チャンスをあげても良いのかなと思う。
- 仰る「チャンス」とは、「渡します」という解釈で良いか？
- ◎例えば、今、富山の市民プラザで、学生たちに「ビジネスプランをプレゼンしてください」という場を作っている。富山市は、若い子たちが、まちづくりについてアイデアを出したものに対して、場とチャンスを提供するというやり方を行っている。自分の世代を含めて年寄りがまちづくりに意見する時代ではなくて、若い子たちにまちづくりを託す。井波にはそのような若者がいるか？という、既に萌芽は結構出ていると思っている。
- 最後は、採算性が取れるかどうかだ。
- ◎ビジネスモデルまで含めた経営計画をしっかり出してもらい、まちプロのメンバーがしっかり審査をするというのであれば、十分可能性はあると思う。例えば、企業や民間団体などを含めてアイデアコンテストをやる方が、庁舎活用の方向性が見えてくるのではないか？
- 今の庁舎の間取りで対応出来るのか？
- ◎市の提示している金額で十分リフォーム出来ると思う。自分たち世代を含めた年寄りが、今までの常識だけであれこれと意見を出すよりも、若い人たちの中からアイデアを募ったり、そのアイデアに対して場の提供をしたりする方が、有望なアイデアや人材が出てくる可能性が高い。
- 若い人たちがその気になってくれれば嬉しいが。しかし、改修するよりも、取壊して新築する方が、使い勝手も良いのではないかなと思うが。
- ◎逆に、古い建物を工夫して活用する方が上手いっている事例は多い。公開プレゼンテーションやアイデア大会の方がいろいろなアイデアが出て、良いという提案をさせてもらった。
- 先日の島田さん提案の三四郎プロジェクトは、非常に重要なことと思った。庁舎のいくらかのスペースで、時代をつないでいくような事が出来たら良いと思った。また、瑞泉寺や高瀬神社を永久的に守っていかなければならないように、それらに関係する井波の職人さん方を、お抱え職人のように守っていかなければならないと感じた。
- 日本遺産に登録されたこともあって井波彫刻が注目されているが、今までの井波のまちづくり中心は福祉・医療。訪問看護を先駆けて取り組んできたし、地域包括ケアセンターもある。介護度の低い方向けの何かサービスもあれば、福祉面では更に充実すると思う。それに加えて、先程からの子どもの遊び場と、井波の職人を守っていくという2つの機能を施設の機能として入れることが可能かどうか。
- 福祉の機能を入れるのであれば、富山型デイサービスのよう、子どもからお年寄りまでを組み合わせた複合的なものが必要になるだろうが、それを井波庁舎で行うのは無理があるように思う。
- そのような介護や福祉の分野に大手資本が入ってきていることから見ると、庁舎を改修した程度の建物ではお客は付かないだろう。
- 仮に、庁舎建物を壊して新しい物を建てるとしても、面積、機能、スタッフなどの制約がいろいろとある中で、我々が本気で取組めるのか？
- ポテンシャルの高い民間との競合に太刀打ち出来るのか？というところである。
- 24時間対応などを始め、介護サービスが多様化している中で、介護、看護を始め様々な分野の資質の高いスタッフも必要となる。そのようなスタッフの集まるような内容にしないと難しいだろう。
- 先程ご意見のあった、庁舎跡を活用したコミュニティビジネスについて、シェア金沢みたいなことが出来れば大変素晴らしいが、実際そうやって乗ってくれるかどうか。
- なかなか難しいと思う。そもそも、金沢と井波では人口規模が全く違う。
- コミュニティビジネスを複合的に行うにしても、上手く管理してくれる人も必要になる。
- 今日は結論が出ないし、方向も出ない。せつかく能登さんがいらっしやるので、いろいろな事例を伺って参考にしてはどうか？
- ◎絵に描いた餅をいくら話しても進まないの、一度シェア金沢を皆で視察してはどうだろうか？視察対応もしっかりしているし、施設などを見ればイメージしやすいのではないかな。行政に頼らない民間の地域づくりの現場なので、参考になると思う。
- どうやって集客しているのかを知りたい。
- ◎興味深いノウハウを結構持っているの、参考になる。金沢だから出来る、という仕組みではない。

- それでは、皆さんで視察に行くことにして良いか？
- (全員)異議なし
 - ◎受けたサービスに対してきちりと費用を支払うのが、新しい公共。官だから無料、民だから法外なお金を取るのではなく、ちょうどよいのが受益者負担だと思っている。
→他に視察したら良いという施設はないか？
 - ◎野々市市の「ののいちカミーノ」は新築だが、興味深い。また、施設ではないが、金沢市東原地区の地域づくりは村部の協議会は非常に参考になると思う。
 - 一度、視察に行く段取りをしてもらえないか？他にもどこか施設が見られると良いが。
 - ◎調べて、情報提供したい。県内では、氷見市のいきいき元気館は、市内中心部にある全天候型の児童施設で、一度見てくると良いと思う。
→子どもの遊び場については、いろいろな観点がある中で遊具の設置も一つだが、その場所でどういう遊びを提供するか、という企画や人材が大事なのではないか？
 - 次回の会議では、視察研修会について、視察先の検討と日程調整をしたいと思うが、それで良いか？
 - (全員)異議なし。

◆次回会議

日時…9月30日(火)午後7時から
場所…山野交流センター 会議室
内容…視察研修会の開催について